

(別紙3)

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	LEIF白石		
○保護者評価実施期間	2026年3月4日		～ 2026年3月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	2026年 3月18日		～ 2026年 3月24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・「サッカー療育」として同じ目標や目的を持ち、それぞれの児童の満足感を満たしながら成長を目指している。	・どんな特性や運動レベルの児童でもサッカーや活動に入れるように、「楽しさ」「成功体験」を含んだ活動内容にしている。 ・トラブル等があった際には療育中に解決し、家庭へのマイナスなお持ち帰りがないようにしている。	・特性に合わせてつ、進学先や社会での将来的な支援も行っていく。 ・サッカー大会等の本番をさらに増やし、社会経験が出来る環境を増やしていく。
2	・集団活動の中でも個別対応に力を入れ、それぞれの児童が活動に参加できる時間を増やせるよう工夫している。	・保護者から家庭や学校での様子を共有していただき、特性に合わせた個別対応を職員で考えている。 ・難易度や環境の調整、メニューの考案等、理学療法士の運動評価も参考にしながら活動内容を複数パターン用意し、臨機応変な対応が出来るようにしている。	・通所を開始してからの期間により、運動面では差が生まれている。入所して期間が浅い児童には、別メニューを組みながらサッカーの基礎的な練習を行えるようにする。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	現在の受け入れが小学生のため、中学・高校に繋がる継続的な支援は他事業所への移行が中心となっていること。	中学移行受け入れも視野に入れており検討段階である。実現のためには職員の充実や、受け入れ体制等も整えていく必要がある。	開所して3年経ち、保護者からも中学の支援要望もいただいている。 今後前向きに検討していき、中学移行の支援先も選択肢を増やしていきたい。
2	「サッカー療育」としているため、サッカーへの興味が薄い児童(特に女子児童)が入所しづらい。	体験時にはサッカー以外のイベント活動を行っていることを説明しているが、パンフレット等への記載内容としてはサッカーがメインとなっている。 活動内容を宣伝できる機会が少ない。	SNS等を運用し、サッカー以外にも自然体験や外食体験など様々な活動を行っていることを発信していきたい。
3			